



為
治
の
か
た

七編上

七編上



子壽法宗

くわん

何事浮の

骨古公篇

笠亭仙果作

長高園貞画



Vertical calligraphy in the upper right corner of the illustration page.



荷紫

宇治

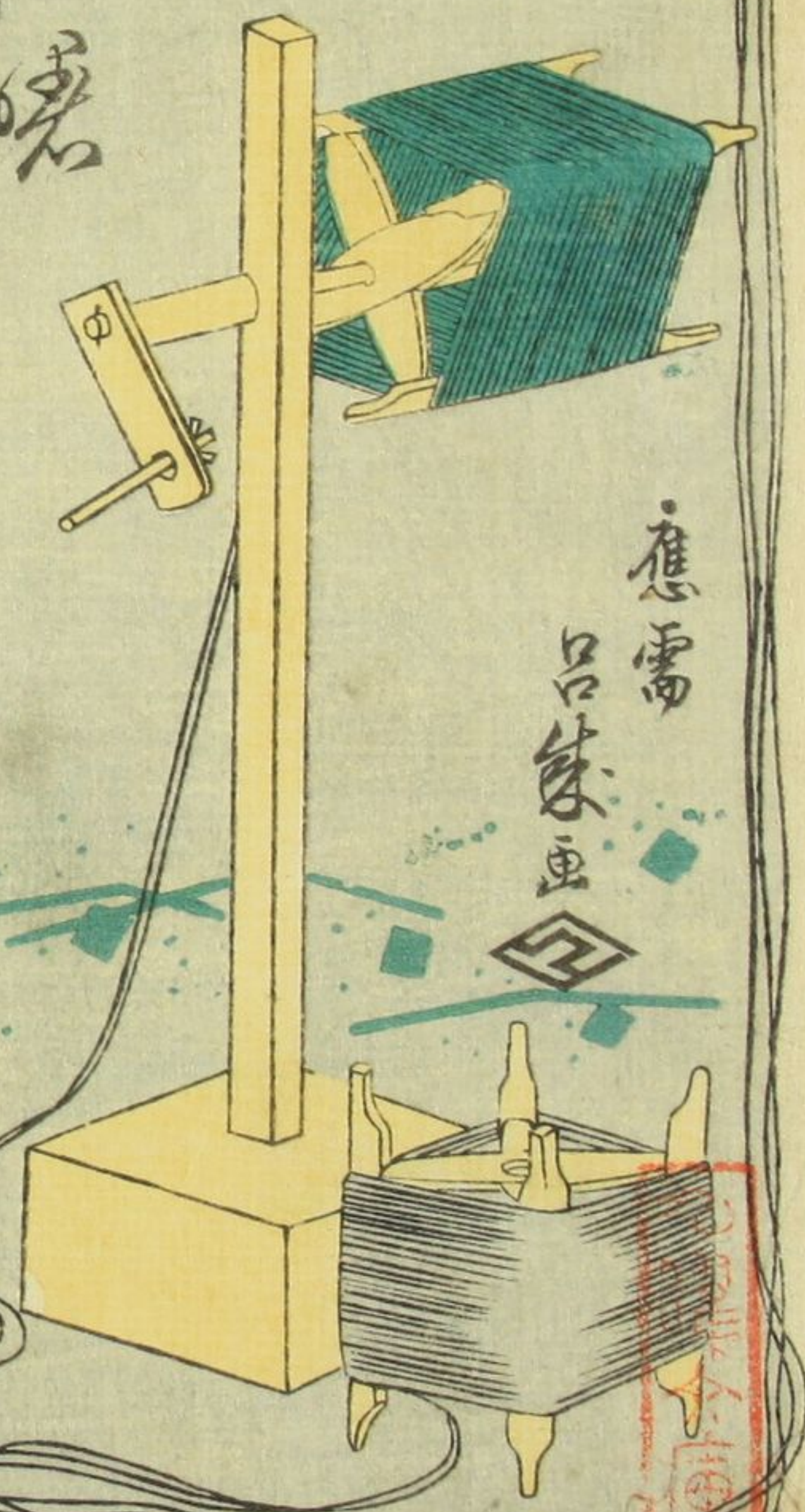
身七海

仙果

國貞画

上の巻

榮文堂



應需

呂味画

當度助筆の薄紫免道へ河ふ名の高く宇治川先陣小人衆知もり
 其高細の生喰と鎌倉殿小請や途を源太外もれ賜じ云いそ掠盗と
 登一とあり彼と此と異るまこと先作者世業小暇も七編當春の間ふあふと問屋へ腹を
 橋の小島が先と争うて新板の發兌急ぐ中ふ景季が馬の腹帯延ここ人ふふ
 此とんと龜石の地えと道理至極先學へ知もる魯鈍もまこと同門の好るるふ
 思ひす鹿飛米りの急流より早く書るる苦心いひもて他作と奪ひ
 やりふ爪弾せられんう嗟乎腹稿問ふるもなけまふ趣向の大綱小綱
 ども切拂ひく筆小鞭ち摺墨も凍る十月冬至の早咲彼傾城の梅枝
 あらうぞ紅梅の巻末より書續ぐ

安政二乙卯年甫

重三

笠亭仙果



傳書二



治世

宇治十帖の眼目ともおもはるるれは
浮舟の巻れ中をまじりて引揚ぐ軍を

曲り廻る

薫之助
光將

雑妓

宮城野

靖鈴式部卿の

二女
宮の君

比す

専

總角の巻

故宮の夢ふんえんぬつ
ゆとおおなりうらけきまを
けいりうふこと海のみま
なすつれとまろ
なむまのいひ
あくうのさ
そひて云

曲五國虫

左馬助美邦

拾遺集戀四
よみんらん



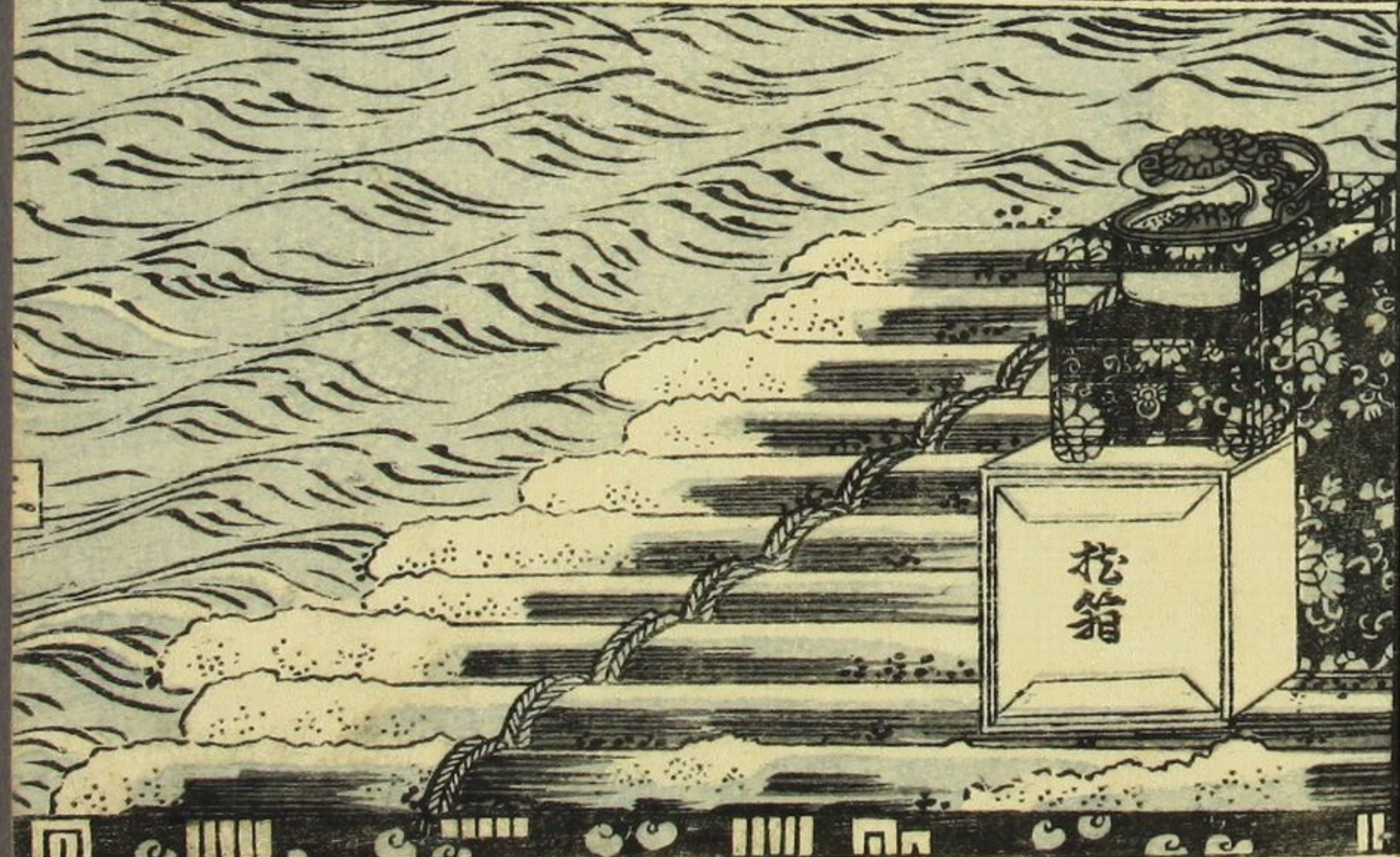
總角姫

たらしひれ
親の望み
うたふ屋の
物ゆふまの
業よそ
あうろ

千里姫



花箱





兵部丞氏卿

六條三筋町
阿曾比
浮舟
實左馬助
第三の息女
筆子

仁木次郎時方

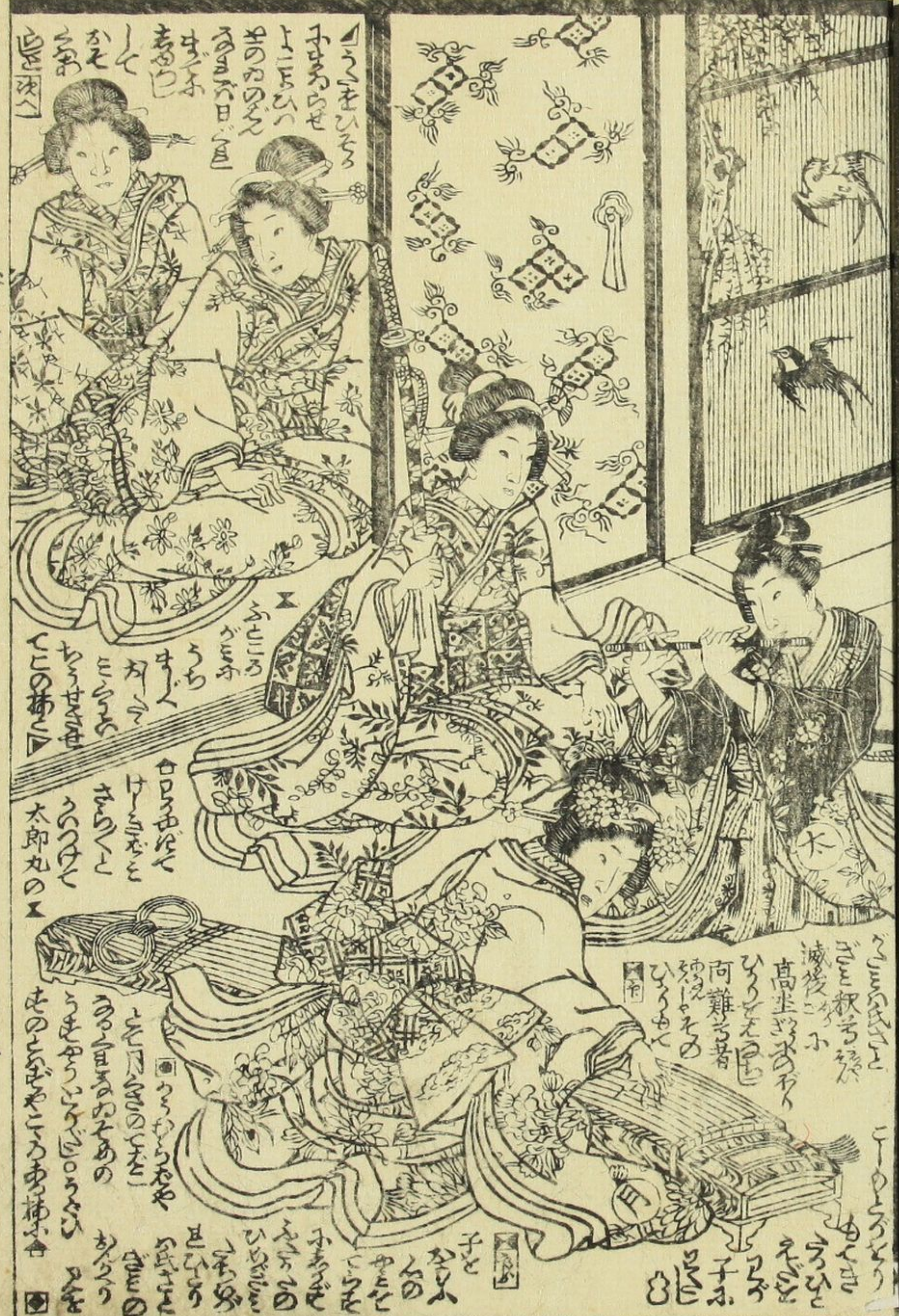
こゝろもろもろん
ものろ楷は小舟
さらよちまら
こゝろ

曲の國



梅津右京亮直春...
大郎丸...
直

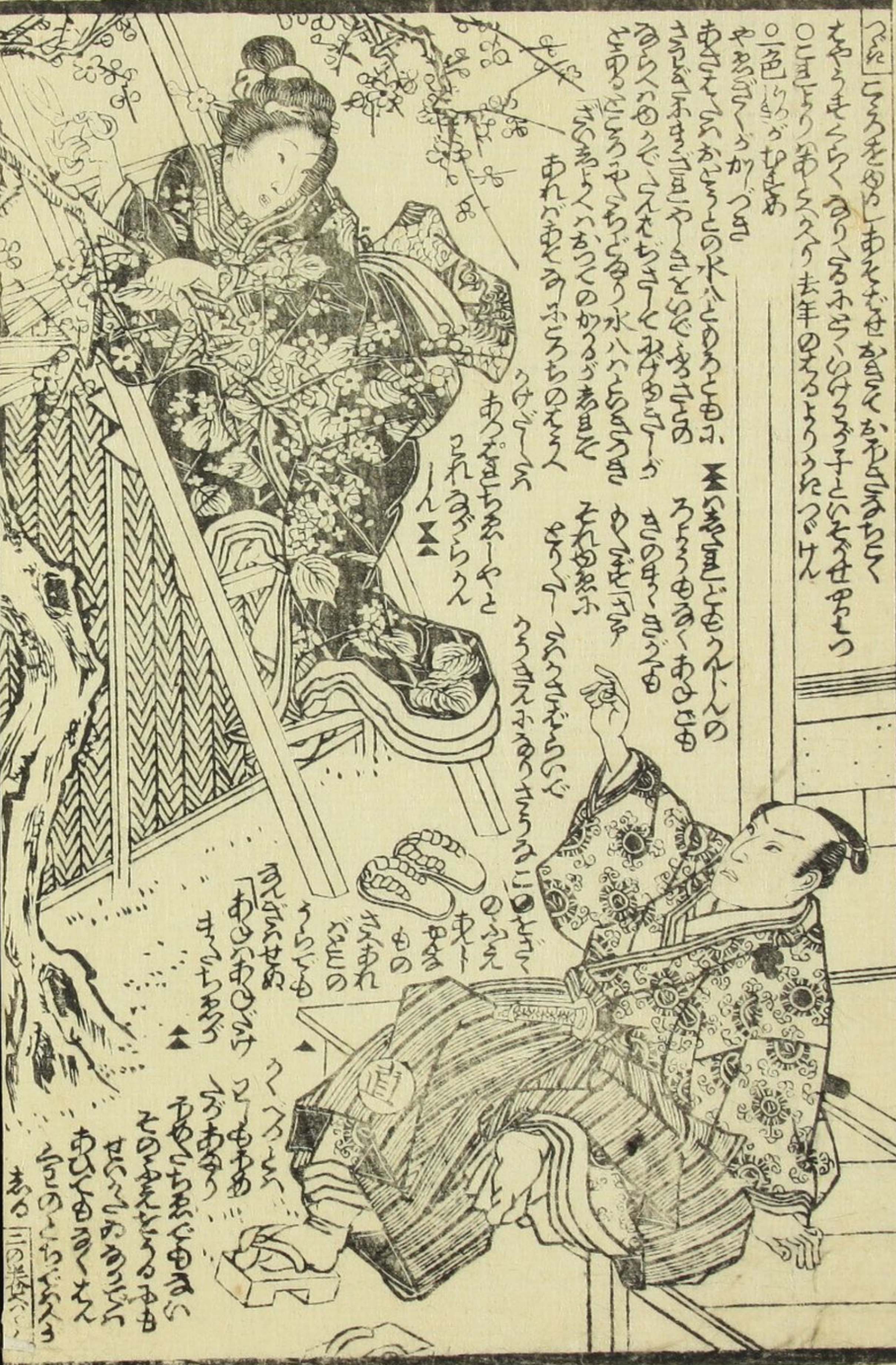
高生...
向難...
子...



大郎丸...
直

高生...
向難...
子...

高生...
向難...
子...



Vertical Japanese text on the right side of the top illustration, likely a scene description or dialogue.

Vertical Japanese text on the right side of the bottom illustration, likely a scene description or dialogue.



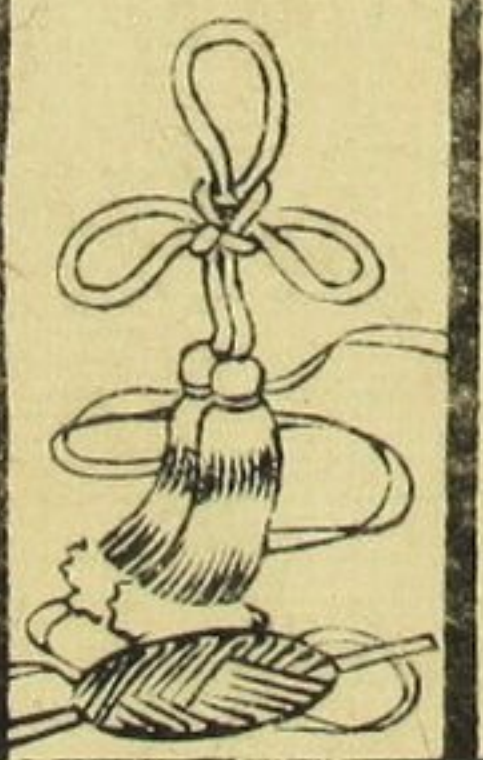
Vertical Japanese text on the right side of the top illustration, likely a scene description or dialogue.

Vertical Japanese text on the right side of the bottom illustration, likely a scene description or dialogue.



薄紫宇治曙

笠亭仙果作
一陽齋豊國画
一壽齋國貞画



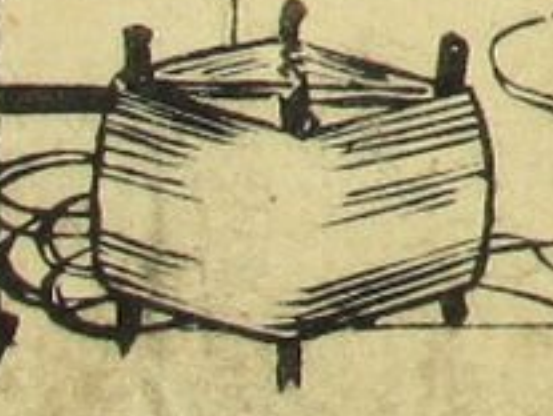
本首紙問屋

七編 八編 総角巻と訣す由先作者やせりしところ紅梅竹川ふ
漏一 ころ夏少くもど例の狂言多端なれば先此二帙ふ茶糸一線の
筋を解分生込ると削刷ひ凶徒を大方誅伐一早ぬ
故小總角姫の一斯物語八延て九編ふ委一く十編ハこの姫
終享の遺るれば哀まふ悲く早蕨の和味ハ十一編十二編あつろ
遊君浮舟初て出てかむむきからん前版同様ハ高覧な希ハ

板元とともふ 作者仙果敬白

東都芳町川岸角

榮久堂發兌

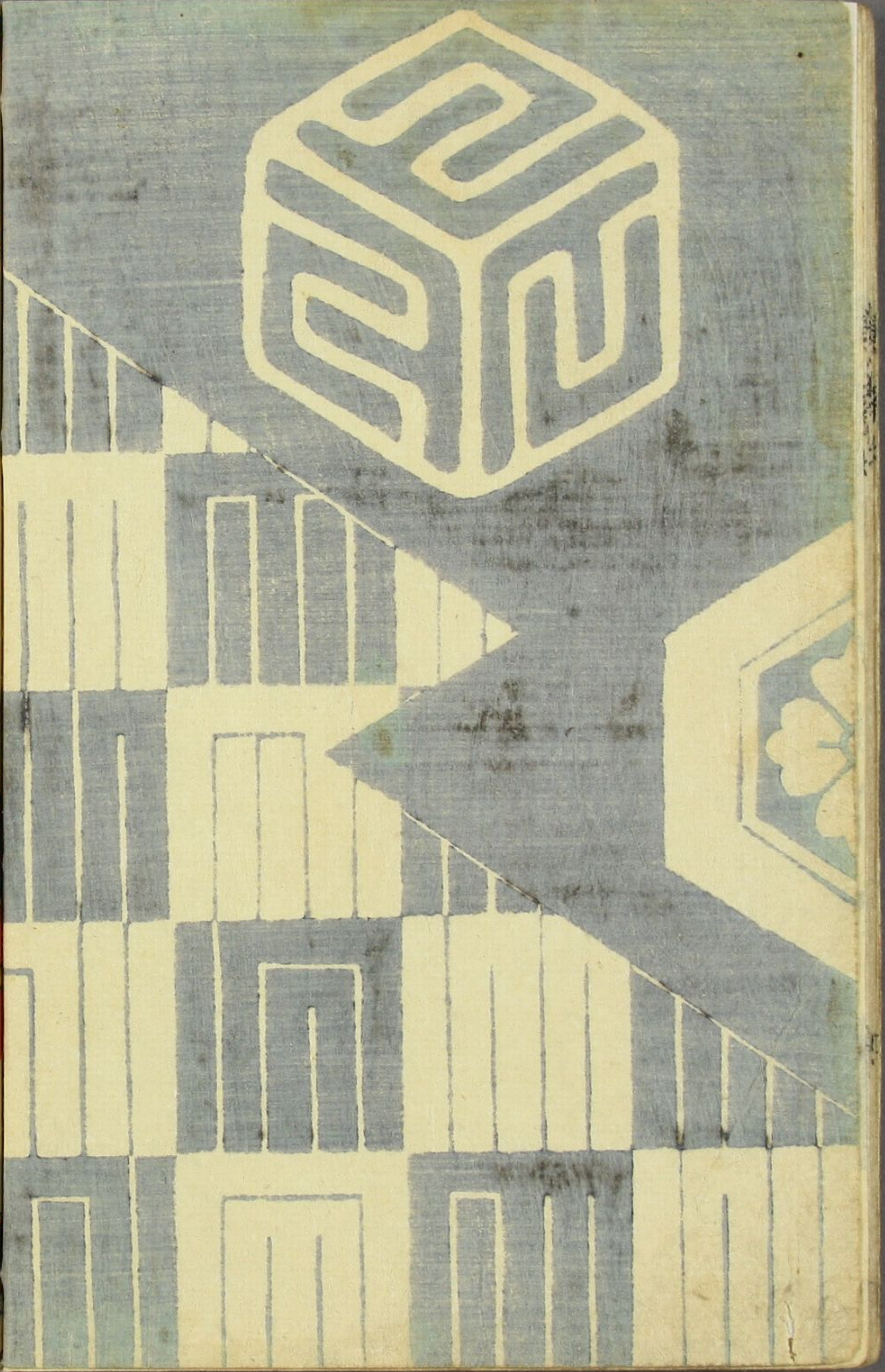


仙果作
國真画



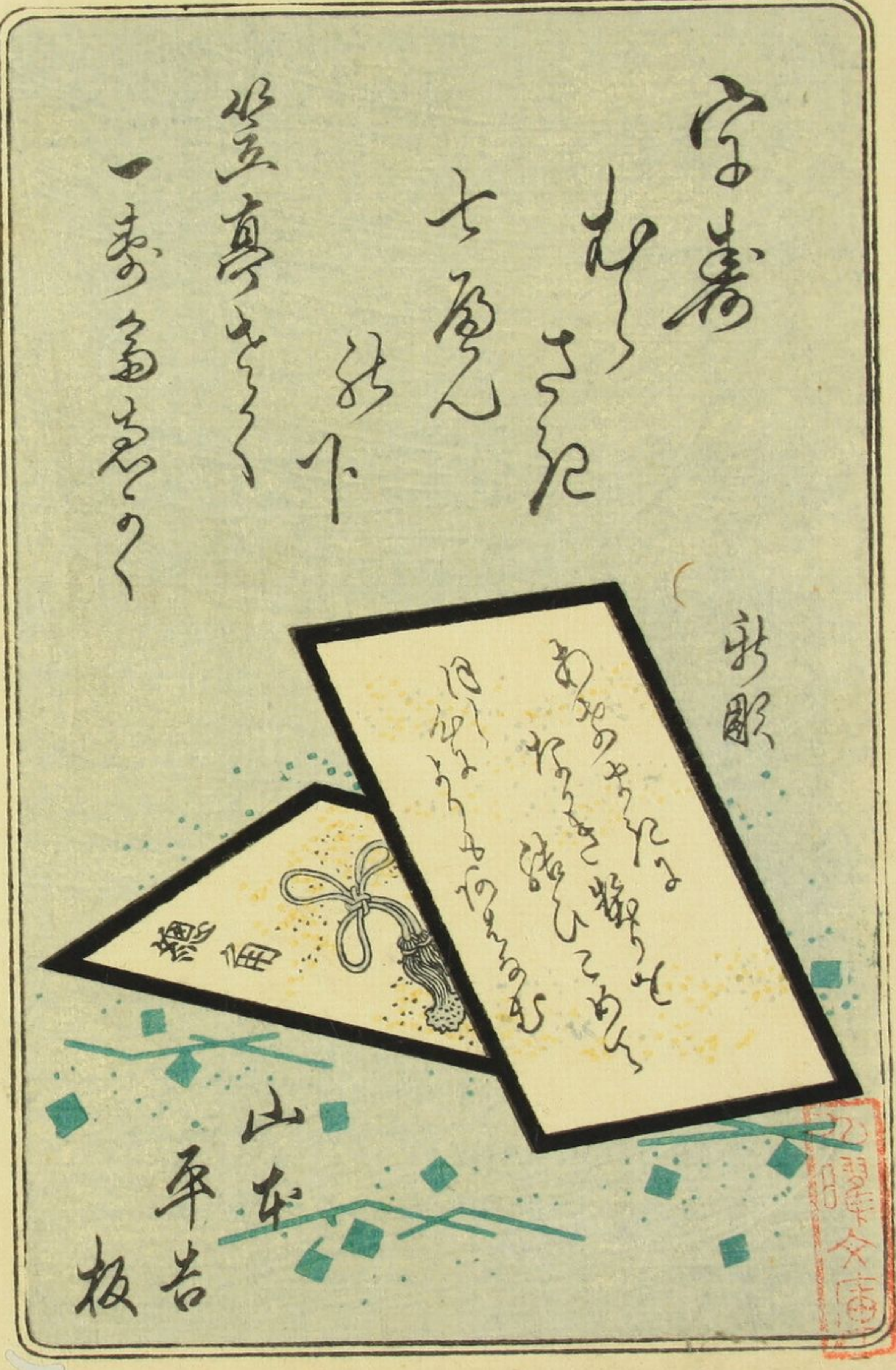
七編下

榮名
壹持





東二



字書

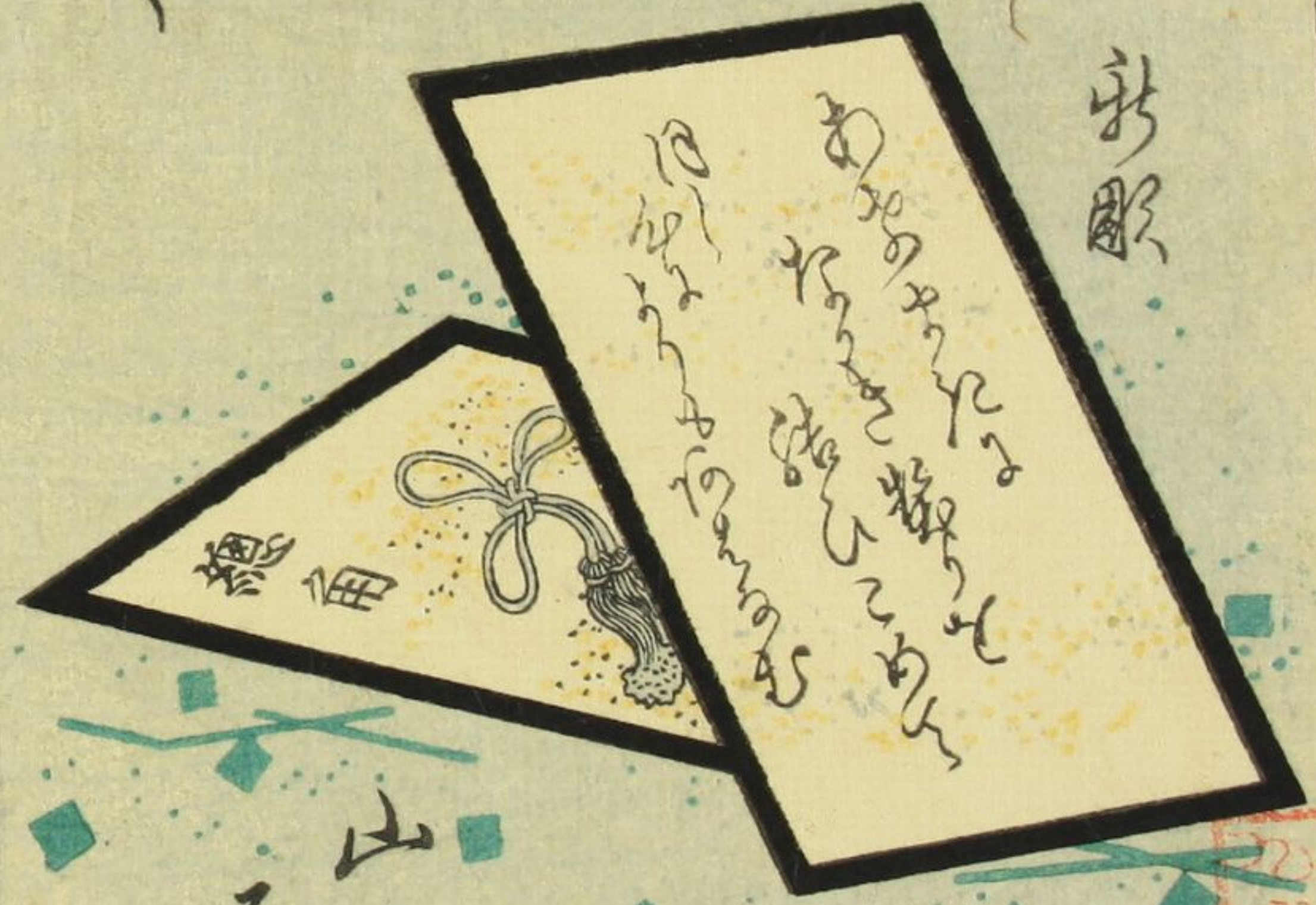
七

下

...

...

...



山本

平吉 板

...

お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の

お茶屋の
お茶屋の

お茶屋の
お茶屋の

お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の



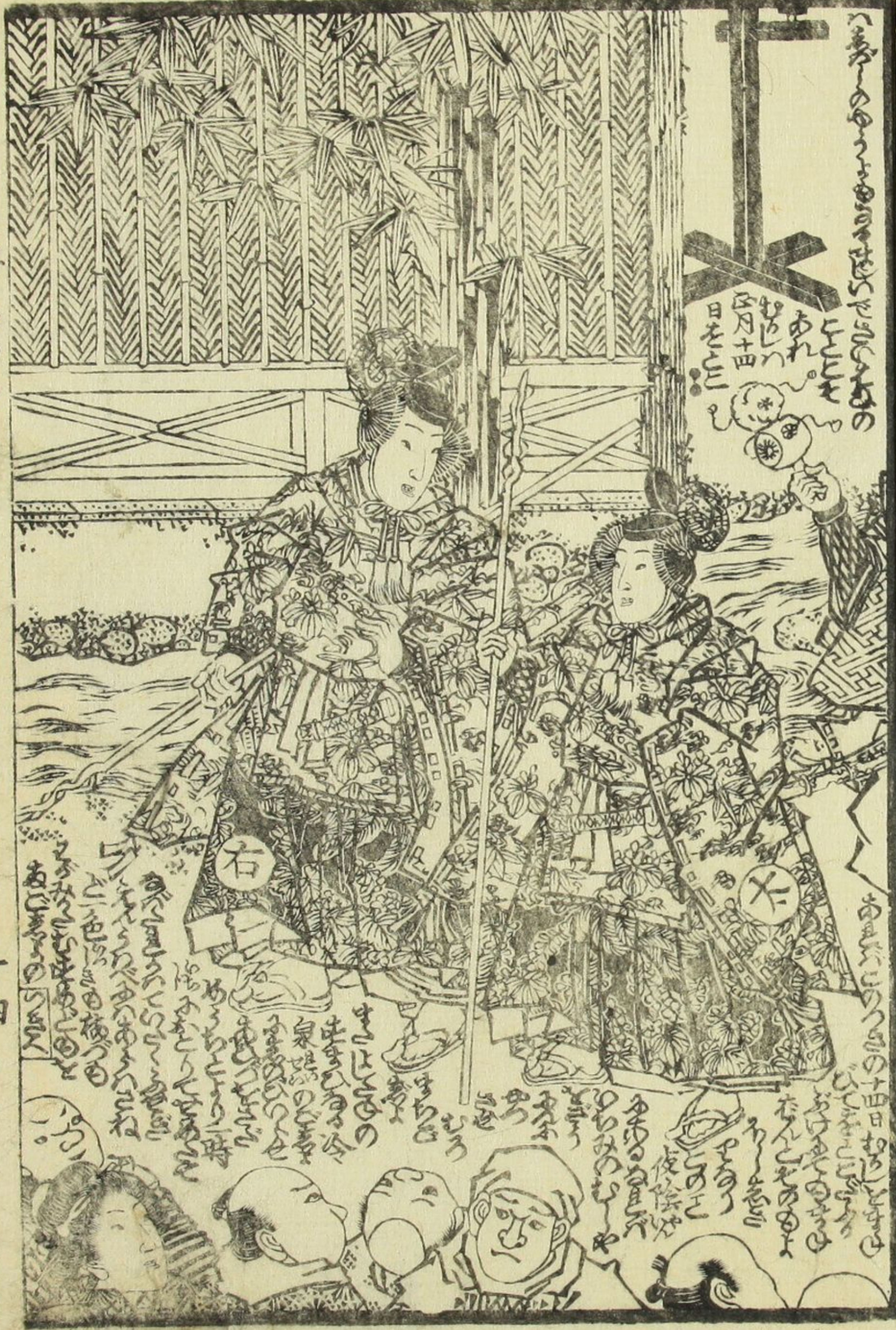
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の

お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の



お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の

お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の
お茶屋の



右

十四

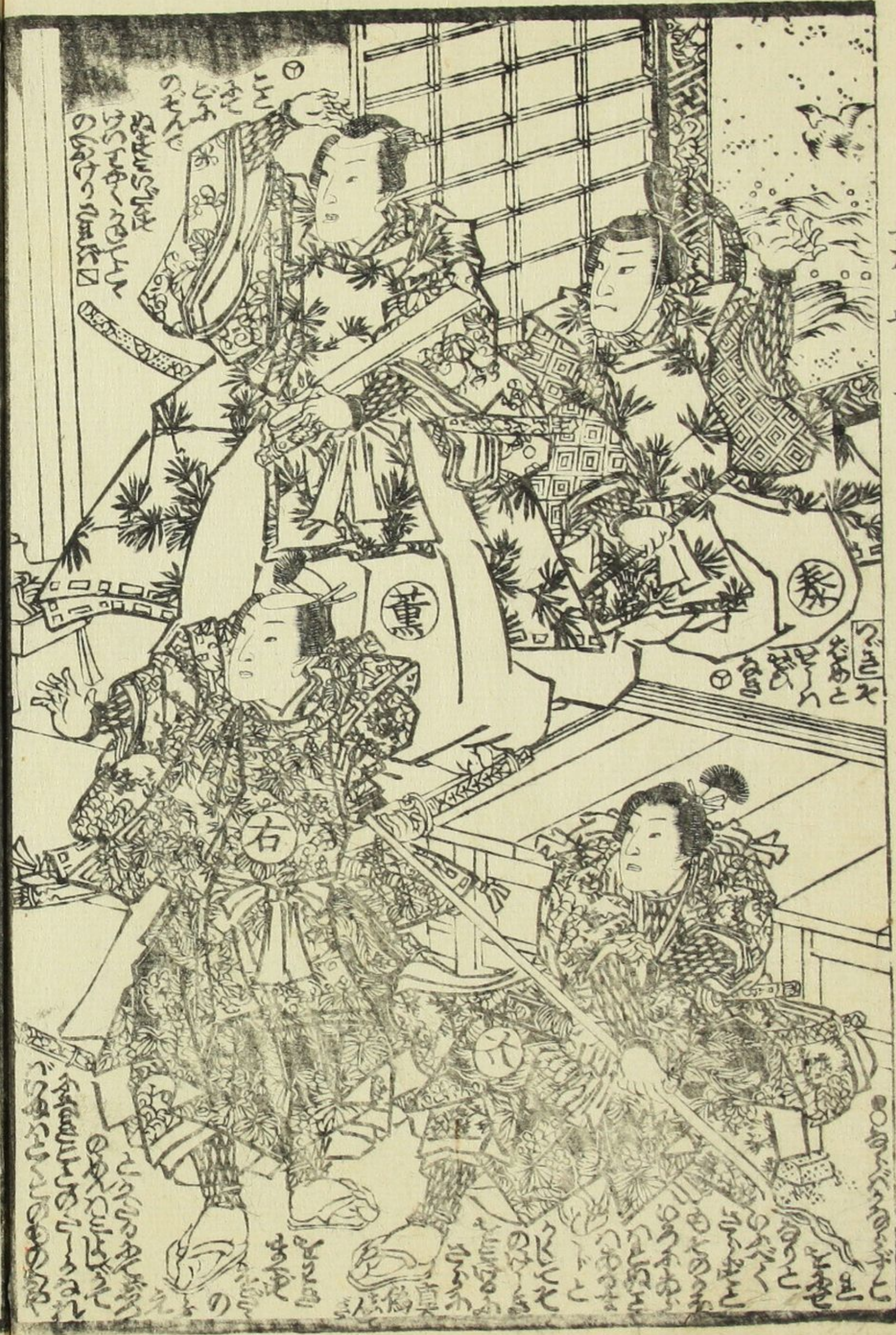
左

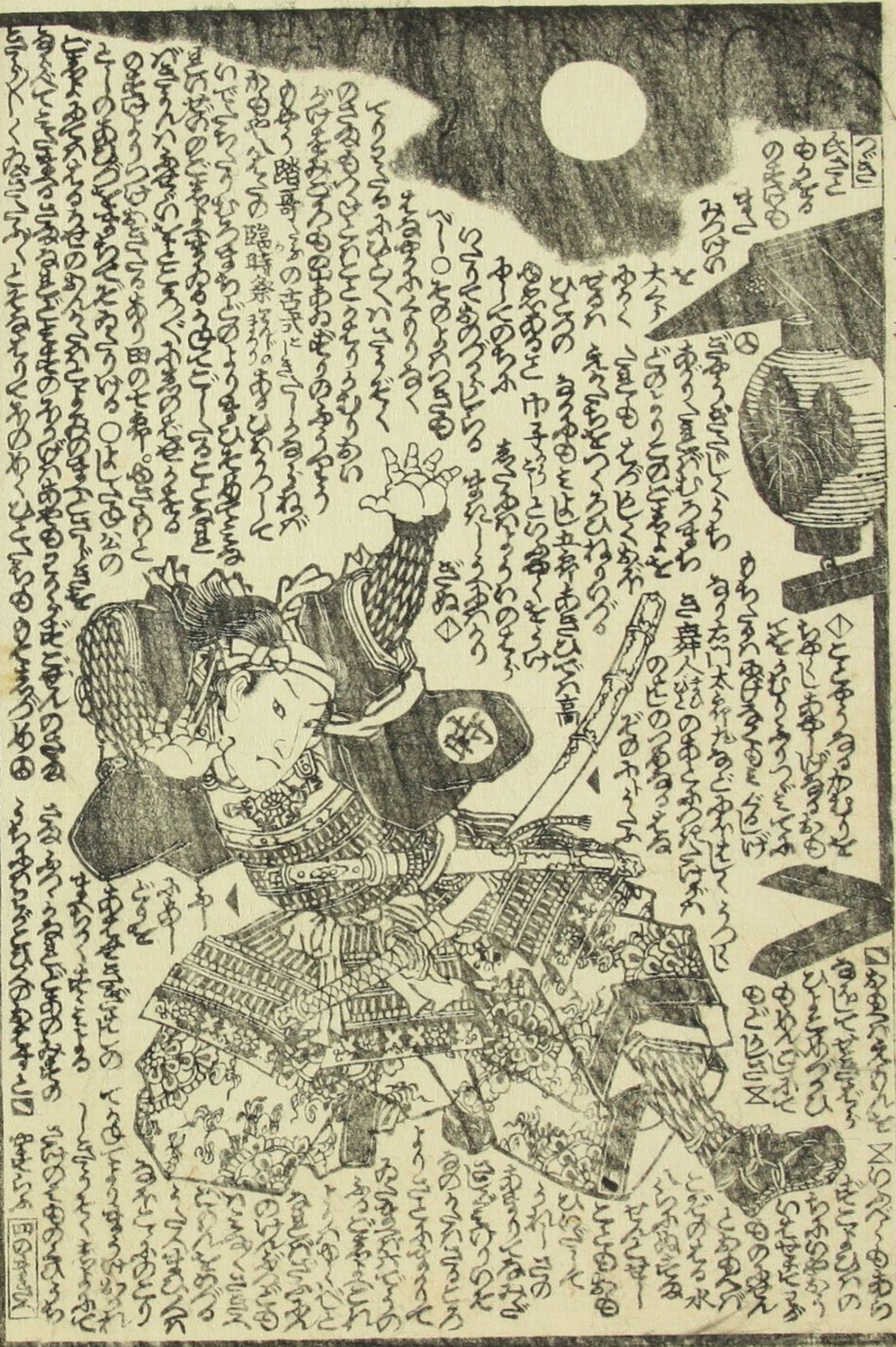
十五

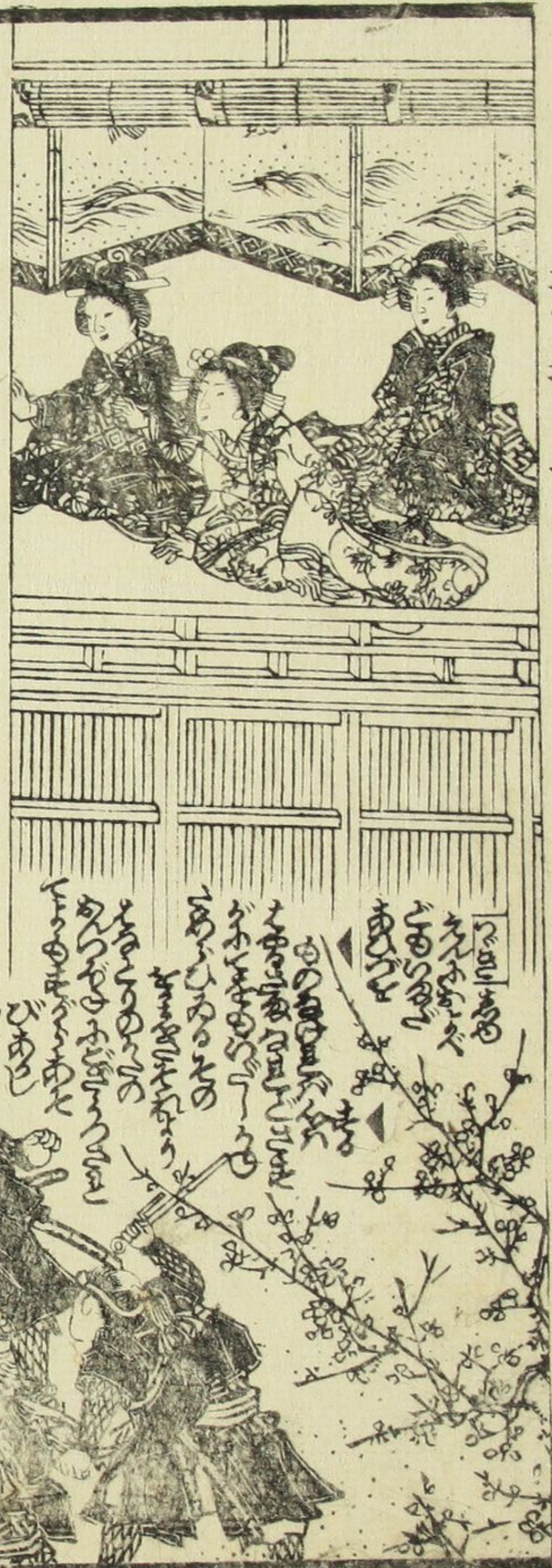
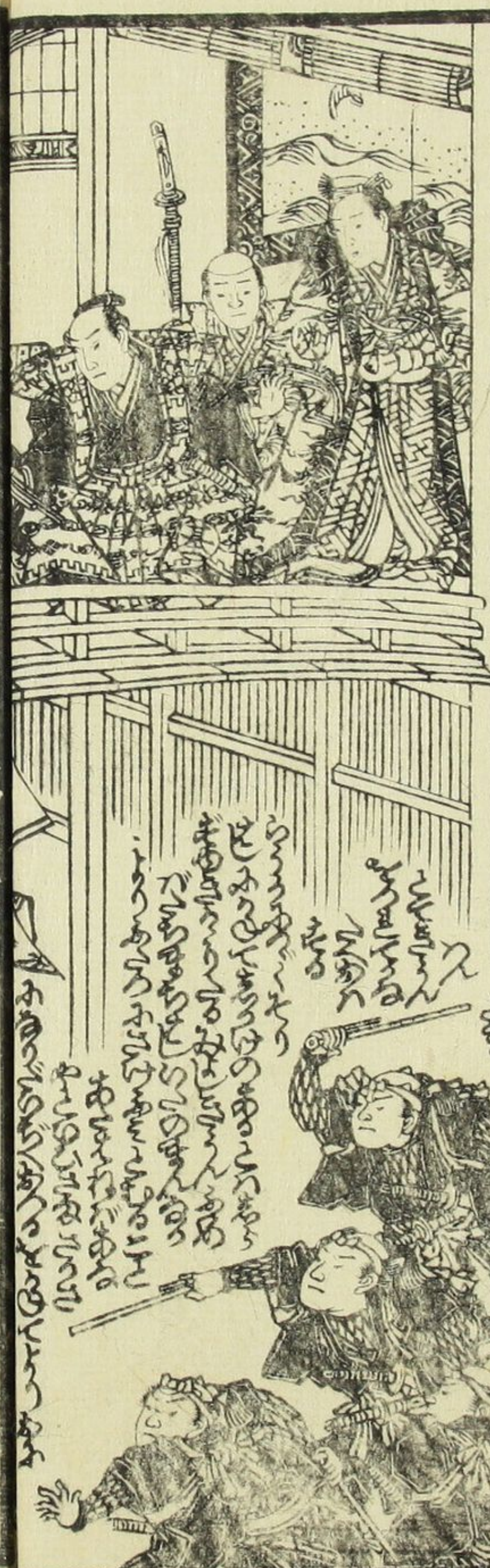
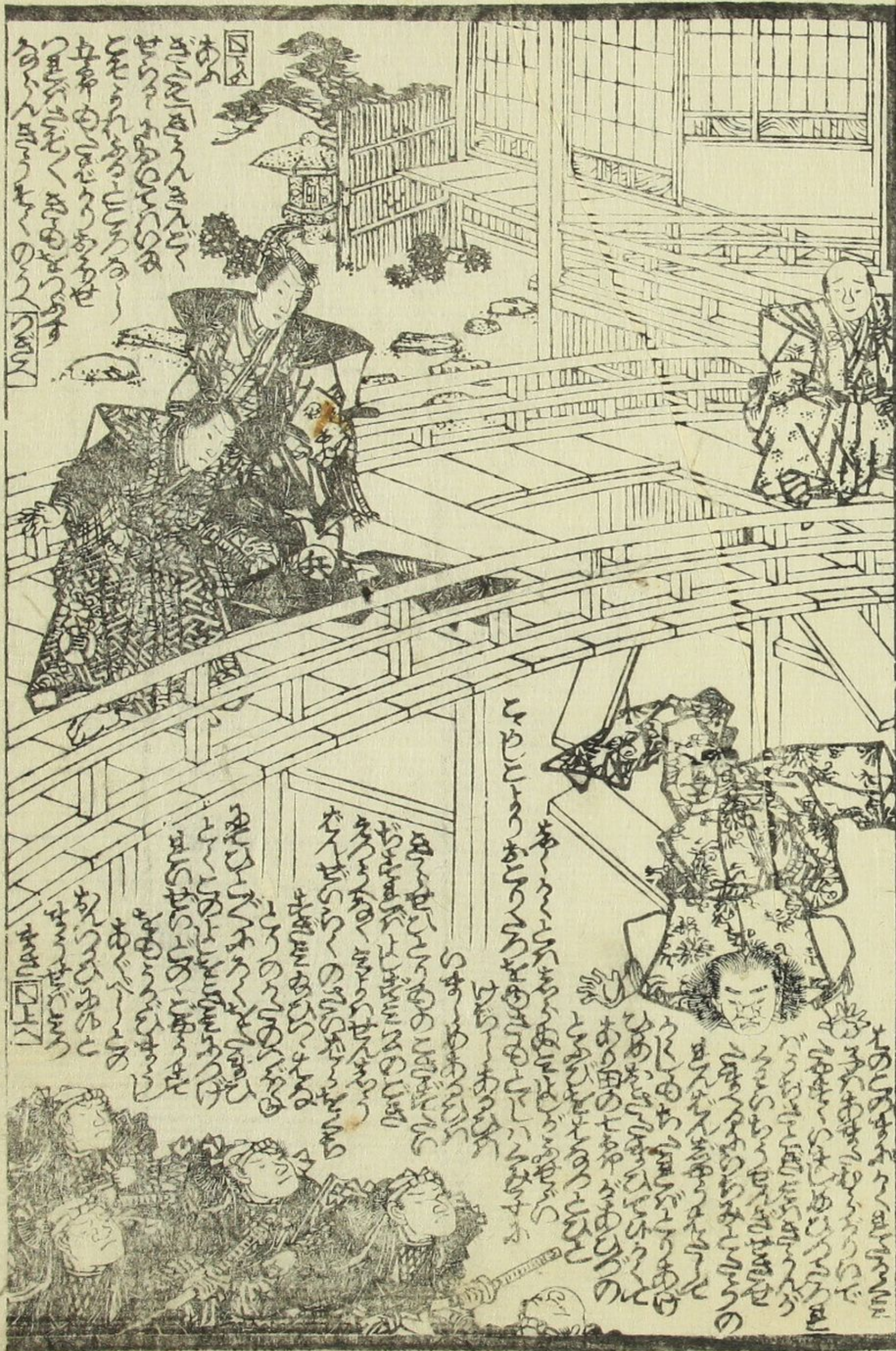
右の人物は、左の人物に
 何かを告げている様子
 である。右の人物は、
 左の人物の言葉を聞き
 ながら、何かを言おう
 としている。右の人物
 は、左の人物の言葉を
 聞きながら、何かを言
 おうとしている。右の
 人物は、左の人物の言
 語を聞きながら、何か
 を言おうとしている。

泰の人物は、五の人物
 に何かを告げている様
 子である。泰の人物は
 五の人物の言葉を聞き
 ながら、何かを言おう
 としている。泰の人物
 は、五の人物の言葉を
 聞きながら、何かを言
 おうとしている。泰の
 人物は、五の人物の言
 語を聞きながら、何か
 を言おうとしている。

泰の人物は、五の人物
 に何かを告げている様
 子である。泰の人物は
 五の人物の言葉を聞き
 ながら、何かを言おう
 としている。泰の人物
 は、五の人物の言葉を
 聞きながら、何かを言
 おうとしている。泰の
 人物は、五の人物の言
 語を聞きながら、何か
 を言おうとしている。











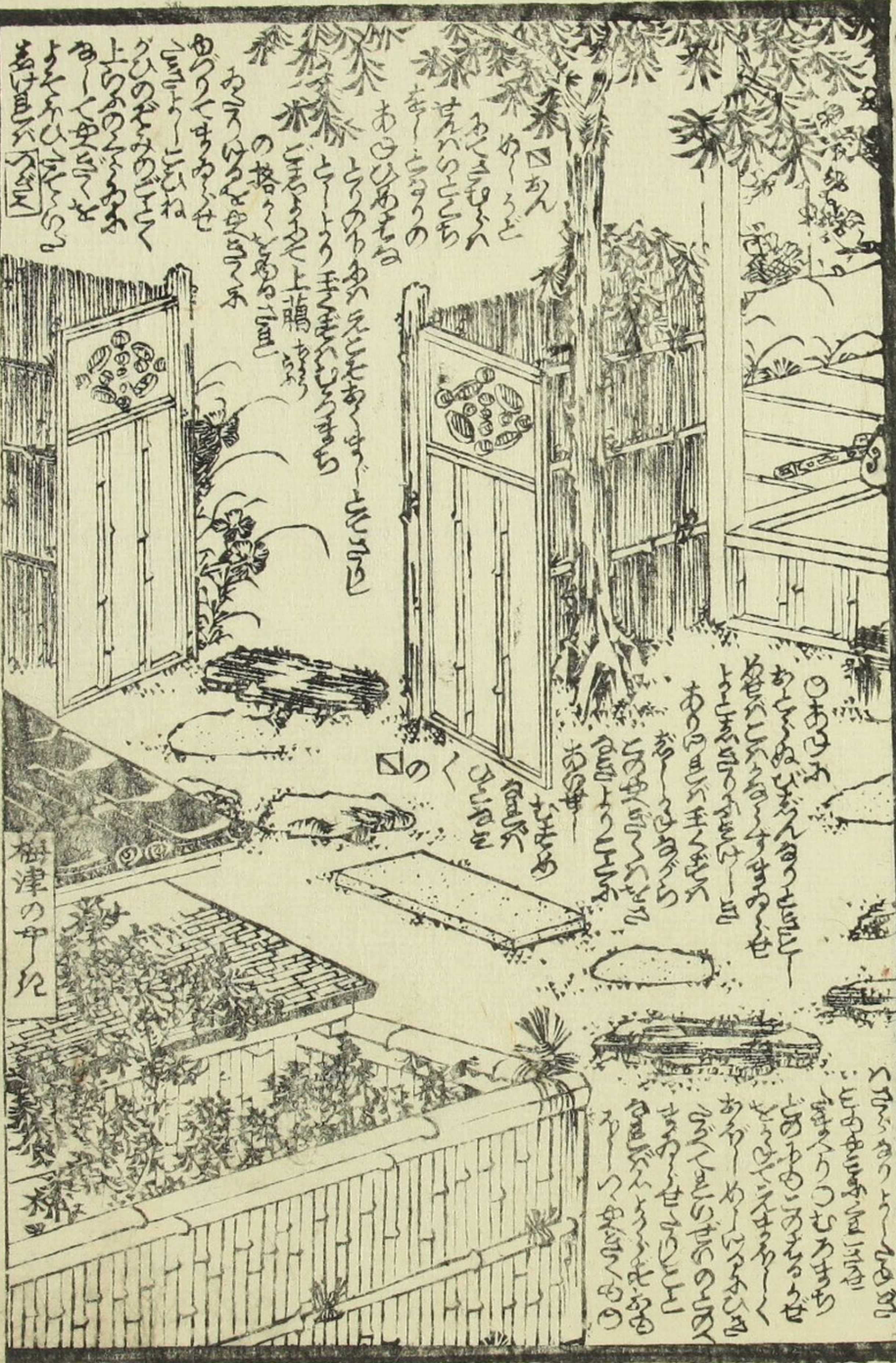
Handwritten text in the top left of the right page, including the word "Eban" and other illegible characters.

Handwritten text in the bottom right of the right page, starting with "餘上のの..." and ending with "五".



Handwritten text in the top left of the left page, including the word "Eban" and other illegible characters.

Handwritten text in the bottom right of the left page, starting with "あつちのり..." and ending with "五".



あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

梅津の中

梅津の中



あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの
あけぼの

一色のあけ

梅津の中

